

女性研究者ロールモデルセミナー

ユニバーサルデザインとジェロントロジー(加齢学)の研究実践によるソーシャルイノベーションの可能性について、ご自身のキャリアと重ねながら、講演をいただきます。

また、元企業人の視点から、卒業までに学生に身につけておいてほしいことについても、お伝えします。

未来を創るキャリアデザイン ～その多様性と可能性～

「ユニバーサルデザインとジェロントロジー(加齢学)による社会形成」

2017年 3月7日(火) 13:00～14:30

@ 稲盛記念会館 1F 106 講義室

対象：学生、院生、教職員(学外からの参加も歓迎します)

◆ 講師： 関根 千佳 氏

同志社大学大学院総合政策科学研究科 教授
株式会社ユーディット 会長



長崎県生まれ。九州大学法学部卒。均等法前だったので外資系しか女性を採用するところがなく、全く畑違いの日本アイ・ビー・エムへSEとして入社。ITがわからず苦労するが、その経験から「わかりやすいIT」の必要性に目覚める。連れ合いのLA転勤に伴い休職して渡米。多様な人が活躍する環境に刺激を受け、帰国後、トップに直訴して1993年に日本初の障害者支援技術センターを社内に開設。1998年にIBMを卒業し、株式会社ユーディット(情報のユニバーサルデザイン研究所)を創立、代表取締役役に就任。2012年より同志社大に着任。

多様な人に使いやすいICT機器のコンサルティングや、高齢化の進む地域の活性化支援を行う。多くの省庁・自治体・企業・学会などで委員や評議員を務める。美作大学・放送大学客員教授。東京女子大・京都工芸繊維大・神戸大・神戸芸術工科大等の非常勤講師。同志社大学の講座「華麗?学への招待」は学外からの聴講者が多数の人気講座。

◆ 講師からのメッセージ：

社会は、小さな子供からシニアまで、多様な人々によって構成されています。自治体はまちづくりや観光を、ユニバーサルデザインの視点で進めています。企業は顧客の高齢化に対応するため、商品をユニバーサルデザインのプロセスを用いて開発しています。多様なニーズを持つ人々を、行政は、企業は、どのように「インクルード」し、協働して改善のプロセスを回しているのでしょうか？

ユニバーサルデザインの研究では、高齢者や障害者を、弱者としてではなく、「ユーザーエキスパート」として、その道の先達として意見を聞いていきます。そして、より重いニーズに対応させたまちやものが、より軽いニーズの人々を幸せにできるという実践を進めています。まちやものに内在する課題を発見し、解決策をとことん話し合う、そんな試みについて紹介できればと思います。

事前申し込み
不要

【E-mail】 danjo@kpu.ac.jp
【HP】 <http://kpu-sankaku.jp/>
(「京都府立大 男女」で検索!)

主催： 京都府立大学 男女共同参画推進室 (京都政策研究センター内)
☎ 075-703-5143 E-mail danjo@kpu.ac.jp

共催： 京都府立大学京都政策研究センター